授業は生徒と教師で作るもの

月曜日に、三年C組において英語の研究授業がありました。スタンダードクラスとベイシッククラスに分かれた少人数指導の授業でした。どちらのクラスも雰囲気がよく、多くの笑顔と真顔が見られました。

授業で扱っていたのは「現在完了形」。私たち日本人は「現在完了形」を無意識のうちに使っています。英語ならではの「現在完了形」を改めて学習するわけですから、日本人にはなかなかピンとこない部分があるはずです。それをマスターさせるには、授業をする教師の工夫が必要になってきます。

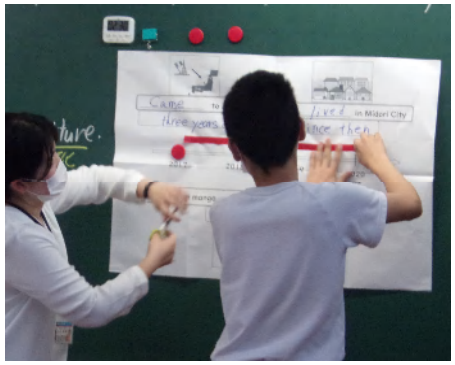
私は感心しました。「現在完了形」と混同しやすい「過去形」との違いを、教師の一方的な説明ではなく、具体的なモデルを使って理解させる手立てをとっていたのです。「過去形」は点を表す一個のマグネット、「現在完了形」は継続を表すビニールテープ、この二つの日常的な小道具を使って授業は進みました。

言葉による説明だけで授業を進めることは簡単です。しかし、それでは日本人が意識していない「現在完了形」のイメージはつかめません。言葉より効果的な視覚に訴える方法をとった授業者二人（小川、鬼頭ペア）に拍手を送ります。

その工夫を受け入れ、生徒たちも生き生きと授業を進めました。三年C組では、卒業や進学に向けた意識の高さに加え、仲間との関わりを大切にして授業を進めようとする姿がありました。感染症防止のために、ある程度の距離を保つことが必要な今ですが、心の距離はずいぶん近かったように感じました。

関わりは意見交流の時ばかりではありません。発言する生徒が「話します」と声をかけたときの反応。発言者を見つめ、発言から何かを得ようとしている時のまなざし。こうした姿に心の距離は表れるのだと感じました。

授業は生徒と教師の二者で作り上げるものだと、改めて感じました。教師の努力と生徒の意欲、この二つが噛み合ったところにすばらしい授業は生まれると言えますね。



（七月十五日　記）